

社団法人 工学院大学 校友会

# 第101号 校友会報 29巻2号

昭和56年11月



新宿副都心超高層ビル群を望む(昭56.6月)(南々西方面よりの俯瞰…矢印は新宿校舎)

## — も く じ —

- 随想……………高山 英華…1
- 工学院大学学歴75年史のことども……………遠藤 鎮雄…2
- 専門学校の今後……………鈴木敬治郎…3
- 奨学金の寄附に就て……………月原 貢…4
- 法人だより……………4
- 思い出の先生達……………加藤昭七郎…5
- 御挨拶……………赤松 泰輔…6
- 大学における基礎教育……………伊保内 賢…6
- 日本人の独創性……………平岡 正徳…7
- 校友会の皆様へ……………山下 司…8
- 支部からの提言……………庭野 七郎…9
- 支部拡充強化の提言……………菊地 忠雄…10
- 支部長会議の位置づけについて……………落合 康男…11
- 校友会の運営について……………榎本 忠良…12
- 支部拡充部の動向……………小野塚政雄…13
- 川崎支部創設25周年記念総会……………鈴木 和夫…14
- 昭和56年度支部長会議報告……………広報部…15
- 海外を旅して……………間宮富士雄…17
- 近況報告
  - 大学……………18
  - 高等学校……………18
  - 専門学校……………19
  - 機械工学同窓会……………長坂 舜二…20
  - 建築学科同窓会……………小高 鎮夫…20
  - 応化会……………富所 良二…21
  - 高等学校同窓会……………足立 剛一…21
  - 専門学校同窓会……………高橋 孝治…22
- 校友会だより……………22
- 竹内七蔵氏のご逝去を悼む……………落合 康男…23
- 昭和57年新年懇親会開催のお知らせ……………24

# 明和の土建機

## 振動ローラー

### ハンドガイド

MRA-85型, 0.85t  
MRA-75型, 0.75t  
MRA-65型, 0.65t  
上下回転式ハンドル  
油圧式

- サイド転圧可能
  - ステアリング軽快
- MVR-30型, 3.0t  
MVR-26型, 2.6t  
MVR-12型, 1.2t



## 新開発

## コンバインド タイヤ鉄輪ローラー

アスファルト舗装最適 センターピン方式

MUG-40型, 4t  
(前鉄輪・後タイヤ)  
MUS-40W型, 4t  
(前後共鉄輪)



## パイプコン ランマー

ベルト掛け式  
RA-120kg  
RA-80kg  
RA-60kg



## タンパランマー

RT-75型  
エンジン直結式  
オイル自動循環式



MC-10型  
MC-12型  
MC-22型  
MC-30型



## コンククリート

(カタログ進呈)



## パイプコン プレート

修繕 P-9型  
理装 P-8型  
・VP-8型  
整形 VP-7型  
・KP-6型



社長 月原 貢 (機58)

昭和43年春 勲四等旭日章  
昭和53年秋 紺綬褒章

## 株式会社 明和製作所

川口市青木1丁目18-2 〒332  
本社・工場 Tel. (0482)代表(51)4525~9  
大阪営業所 Tel. (06) 961-0747~8  
福岡営業所 Tel. (092)411-0878・4991  
広島営業所 Tel. (0822)93-3977(代)・3758  
名古屋営業所 Tel. (052)361-5285~6  
仙台営業所 Tel. (0222)96-0235~7  
札幌営業所 Tel. (011)822-0064

## 随 想



### 理事長 高山 英華

昭和156年4月から、学校法人工学院大学の理事長になりました高山でございます。就任の御挨拶と若干の感想を述べさせていただきます。

学長の伊藤ていじさんのお話によりますと、工学院大学の前身は、築地の工手学校であり、それから専門学校を経て現在の淀橋の工学院大学になり、八王子にも校地をもって、高等学校を併設したわけです。

そして、そのはじめは、明治の日本の急速な工業化の正しい発展のために、東京帝国大学の工学部とともに日本の中堅技術者を育成するという使命をもって創設されたわけであります。それで、当時その設立や運営には東京帝国大学の総長や工学部の教官が自ら熱心にこれに当り、私の先輩であり恩師にあたる建築の辰野金吾先生や内田祥三先生も、その教育や校舎の建設に尽力されたといわれております。

私が理事長になって、新しい転換期にあたる本学園の今後の運営にたずさわることになったのも縁の深いことだと感じます。

そしてまた、新宿の現校舎の周辺は設立当時は東京の郊外であり、正門は西側の淀橋浄水場に面した所であって、私も少年時代に代々木や大久保に住んでいた関係でよく遊びにきたところでもあります。それが、その後の新宿西口の急速な大発展によって現在では、超高層建築が林立して東京の新都心とも呼ばれるようになってきました。その新宿の西口一帯の開発計画には、私も都市計画、建築の専門家として参画してきましたし、その超高層の建設にも深く関係してきました。

そこで、新宿校舎の再開発計画と、八王子校舎の拡充計画を含めて、新しい都心型の学園を建設しようという方向を皆さんと一緒に考えているということも、何か宿縁があるように感じるわけです。

申すまでもなく、本学園は、工手学校、専門学校、大学、高等を通じて永い歴史をもち、優秀な校友を数多く

もっており、今後もこれらの方々に支えられて発展してゆくものでしょう。

しかし、時代は急速に大きく転換しておりますし、新宿の状況もさらに発展の様相を示しております。また、学園に対する社会の要請、父兄の要望も大いに変化してきています。これらの状況を考え、新しい学園像をもとめる大綱を決めて、10月30日の記念日に伊藤学長から発表されました。これらの大綱を皆さんでさらに検討して、その実現にむかって総力を結集しなければならないと思います。

今後いろいろの点で皆さんの御協力を得なければならない大事業であると思いますが、学園の将来の健全な発展のためには、どうしても思い切った決断をしなければならないということは、関係一同が深く決意しているところであります。

私は、学園というものの転換や移転、再建などにこれまでも数多く関係してきました。そこでの一番大切なことは、どういう方向でいくかということと皆で協議してその方向を打ち出したら、全力をあげて、皆が一致協力することがもっとも重要であると確信するようになりました。

もちろん、経済的問題が重要なことは申すまでもありませんが、内部がまとまっていることが絶対というほど大切なことです。それに、土地を売って郊外に転出するだけが今後の学園の姿でないともいえましよう。

すぐれた立地条件をもつた土地は、今後の情報化社会において、すぐれた財産であり、将来の学園の発展の基盤となるものと確信しています。新宿の土地と八王子の土地を生かした学園の運営が、将来の学園の学問、研究の質的發展と経営の安定に果す役割は大きいものがあると考えます。

重ねて、校友各位の御援助、御協力をお願いする次第であります。



## 「工学院大学学園七十五年史」のことども

### 高等学校長 遠藤 鎮雄

表題の学園史が発刊されたのは、昭和39年の5月であったから、以来すでに17年余の歳月がたった。なおこの刊行企画は、31年の春に始まったので、その時点からは25年も経過したことになる。

何で今ごろ、こんなことを言い出したのかと言えば、間もなくにして創立100周年を、学園が迎えるからである。と言っても、百年史を出すとか、出さないとかの論議のためではない。この「七十五年史」の意義や、それが書かれた頃の状況について、執筆者の一人であった者として、この際是非願っておきたくなったからである。それはつまり、記念すべき百年を迎えるために、居ずまいを正す、その作法のように、私には思われているのである。

この学園史が、まさに全学園の総力を結集して成ったことは、同書の末尾「学園史刊行経過」において、編集主査松下芳男先生（現工学院大学名誉教授）が述べられて、まことに明らかであるが、特に校友会が学園と一体となって、この大事業の推進に、精力的に活動されたことは、いまなお感銘として蘇えるものがある。

更に本書の特色として、松下先生は三点を挙げられているが、「その第1は、出身者の成功者、著名者を特記したことである。学園として誇るべきものが、その卒業生である以上、学園史はその卒業生を挙げないことは許されない。この意味において、本学園史は実に約380名以上の卒業生の略歴を書いたのである」として、特色の筆頭に掲げたのは、一見識として永く評価されるべきものである。

もっともこの特記者の掲載については、当時校友間にも議論があり、私としても完全に首肯し得ないものもあった。しかし大事なことは、卒業生を学園の宝としている、その考え方である。この姿勢は、単に特記者欄を設けたことに止らず、年史の各所に成文となって貫かれている。ここが肝要である。

ところで、この学園史の資料編集委員12名中、こんにち残っているのは山口章三郎先生と私、また編集委員14人中残るは、山口章三郎先生、平川紀一先生、評議員伊藤真治氏と私、執筆者4名のうちでは平川紀一先生と私、出版委員6氏では平川紀一先生お一人となってしまう、あとの方はほとんど物故され、また学園を離れられた。校友側のお名前を掲げれば、平田庄一、瀬戸強三郎、北条一郎、石和田章三、山田良実、角岡蘇一郎、鈴木隆晴、大迫千里の諸氏である。

さきほど、居ずまいを正す作法と言ったが、それはこれら先達への、私なりの鎮魂の儀また報徳の思いでもある。

いま私は、こうした感慨のなかで、来たるべき百周年に臨んでいる。幸いにして、75年史代の、学校と出身者との和親協調の美風は、こんにち見事に継承されて、ますます旺んとなっていることは、紛れもない事実である。この事は、目下着々と立案検討されている壮大なる学園将来計画の達成に、必ずや大きく寄与することであろう。七十五年史時の回顧から、これを信じ期待するものである。

〔付記〕 本誌の編集予りのご依頼は、挨拶を兼ねて何か顧慮をということでしたが、上記のように書いてきて、これはどうもご要望にこたえていないと気づきました。そこで末尾ながらのご挨拶となったことを、ご寛容頂きたく存じます。

私はかつて、旧校友会の学校側の理事をつとめ、また旧学園同窓会の副会長をいたしました。そのような関係から、ひろく本学園の出身者各位の真の姿に、多少とも触れ得たと思っています。この体験によって得た「卒業生とは何か」という私の認識は、高校の運営上にも、極めて役立っていると考えております。今後も一段とご開導を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。



## 専門学校の今後

### 専門学校長 鈴木 敬治郎

4月1日から小浪校長の後任を、不肖私がおおせつかりました。

偉大な前校長に比べまして、浅学非才の身で甚だ責任の重大さを痛感致して居ります。馴れないこととて、戸惑い勝ちでございますが恐れてばかりも居られませんので誠心誠意本校の発展のために尽力致す所存でございます。何とぞ校友の皆様のご支援、ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。

さて本校は従来夜間部だけの学校として、永年実績を誇って参りましたが、時世の波には勝てませんで、この数年は入学希望者数が減少の一途を辿りました。このままでは学校の経営も憂慮すべき事態となりますので、昼間部の新設を致しまして新しい若い層を開拓することになりました。

省みますにひと昔前のように働きながら夜勉学に励むという風潮は、今どきの若い人々には歓迎されなくなりました。あまつさえ、御父兄の方々のお考えも変わりつつありまして4年制の大学までは行かせなくとも、本人の力次第では独立するにしても、就職するにしても、昼間の2年制の専門学校教育を受けさせて置けば有利であろうと、昼間部を選ばれる場合が非常に多くなりました。

以上のような理由から、今までは夜間部だけの学校として栄えて来ましたが、昼間部への比重が今後益々増してゆくことでしょう。これは憂慮すべきことか、喜ぶべきことかは、今の時点では予測出来ませんが、夜間部を持つ学校の直面している現実です。

ご承知のように現在では高等学校も半義務化し、中学校卒業生の90%を超える人々が高等学校に進学しており、これら高校生の卒業後の教育機関には大学、短大、専門学校などがあります。

専門学校が大学、短大と異なる主な点は、(1)経済社会の変化や教育に対する種々のニーズに柔軟に対応できること、(2)実務的かつ現実的な専門技術技能の修得が出来ること、(3)教育学科の多数化が可能であることなどであり、大学と違った意味でのソシアルニーズもかなり高まっています。

幸い本学園では大学、高校も加え三様の異った教育機関からなっていて、いわば工業系の教育ニーズの全てに対応出来るようになってきている点は大きな利点であります。ですから本校は上にあげたような専門学校の特長を生かし、教育的ニーズに機敏に対応しながら教育の実をあげ発展しなければなりません。そのためにも夜間部を縮小整理し、昼間部に必要学科を増設拡充することが望まれます。

× × ×

### 原稿募集

工学院大学校友会会報は毎年4月と10月の2回発行することになりました。については下記により原稿を募集致します。

記

1. 随筆、紀行文、一般向きの論文
2. 各支部の情報
3. 叙勲その他校友会員、卒業者の情報
4. 提案、その他

以上400字詰原稿用紙使用（横書き）必要に応じ図面、写真等添えること。

広報部



## 奨学金の寄付に就て

学校法人顧問  
校友会相談役 月原 貢

母校唯一の総合同窓会であった校友会が、十数年に亘って学園同窓会と二分されていた事は、東京地方に住む卒業生は勿論のこと、地方在住の卒業生には何のためかわからず、随分と苦悩をさせられたものでありますが、それも過去となつてたゞいまではその原因や当時のいきさつも忘れてしまい、さわやかな校友会が再現して私は気持ちよく青空が眺められるようになりました。

私はこの合併問題に取り組みながら力量不足で引退しましたが、後任の前島会長や他関係者により実をあげられたことに感謝をするための記念に、又合併問題には格別の理解と同情をよせられた伊藤学長の奨学金制拡張の御勧誘にも賛同すべく、貧者の一灯一千万円を提供して月原奨学金制度を作つて戴いたのであります。

そして、先輩により創設された奨学金制度が大学生のみであったのを専門学校と高等学校生にも加えて貰うように御願ひしたのであります。それは何れも卒業後は校友会員になって貰いたい老徳心からでもあります。

凡そ先祖をおもう孝行な子供が居つてこそ家は栄えりと、明治生れの私には深く刻みこまれております。在校生の諸君、卒業後は母校の校友会へ入会されて、母校の繁栄を図つて下さるよう御願ひしてやみません。

株式会社 明和製作所社長

(大正七年工手学校機械科卒  
昭和43年春 勲四等旭日章拝受  
昭和53年秋 組役褒章拝受)

### ■ 法人だより ■

○ 本学園関係者叙勲について

昭和56年秋の叙勲に際して、本学名誉教授麦島與氏が勲三等瑞宝章を受章されました。

○ 月原奨学金制度新設について

本学卒業生で現在学園顧問の月原貢氏から本学園に寄付された1,065万円のうち1,000万円を基金として、これから生じる利子をもって奨学金に当てる趣旨の月原奨学金制度規程を新設しました。本学園内各学校の成績優秀な学生・生徒に授与し、学業を奨励するためのもので、給付金額は奨学生1人につき、大学部学生が6万円、高等学校及び専門学校の生徒が5万円で、各学校から4名計12名の奨学生に給与いたします。本年10月31日の創立記念式典の際にこの第1回の授与が行なわれました。

(藤井)

創立94周年記念式典行わる

昭和56年10月31日午前10時30分より、四階講堂において行われ、引続き正午より8階会議室において祝賀会が行われた。

式典次第

1. 開会
2. 工手学校設立趣意書朗読
3. 学園年譜抄朗読
4. 理事長式辞
5. 学長挨拶
6. 来賓祝辞  
校友会長、大学後援会長、月原顧問
7. 永年勤続者表彰状及び感謝状贈呈
8. 成績優秀学生・生徒に奨学金授与  
(大岡奨学金、溝呂木奨学金、月原奨学金)
9. 閉会

## 思い出の先生達

大学・一般教育部 主任教授

加藤 昭七郎



私が工学院大学に奉職したのは昭和34年4月のことと思えばそれ以来ずいぶんと長い間お世話になったものです。それまで私はずっと学生(院生)の身分で研究室の片隅からのんびりと世の中を眺めていたため就職のことなどあまり深く考えたことはなかったのですが、ふとした縁から現名誉教授、松下芳男先生の紹介で本学の門をくぐることになったわけです。工学院大学については当時地上の電車であった京王線から見える屋上の看板としか馴染がなく、このような長い伝統を誇る立派な大学であるとは全く知りませんでした。しかし私にとって初めての職場だったので他との比較はできませんでしたが、初めは五里霧中であった本学での務めにもようやく慣れるにつれて、しだいに本学のよさがわかるようになって来ました。一言で言えばそれは自由な雰囲気と人の和であったと思います。ここではその雰囲気をお伝えする意味で何人かの先生達を思い出してみたいと思います。

まず何と言っても現名誉学長野口高一先生を最初に挙げなければなりません。「専任講師を委嘱する。本給1万8千円を支給する」との辞令を最敬礼を以って頂戴したときのことはあまり記憶して居ませんが、礼節という言葉を連想させる修身の先生というのが私の初印象でした。廊下ですれ違ったときなど私が軽い会釈で通り過ぎようとすると、必ず立ち停まって丁寧に答礼される先生でした。思い出すと今でも冷汗が出ます。大学の講師室は当時から私達の憩の場でもたまた談笑の場であったので、いろいろな先生達のお話を伺えるよい勉強の場でもありました。野口先生もよくそこにお見えになられ、学問の話や大学内のことなどいつも気さくに話され、いろいろ教えて頂いたものです。論争的な話題のときなどは私達がいいかげんなことを言ったりすると、鋭く弱点を突いて反撃されたのを覚えています。学長と言えは敬遠とまでは行かなくとも畏敬すべき存在と思っていた私に

とって、身近に親しみの感じられる先生でした。

次に武田楠雄先生。先生は数学教育史を研究されて居り、また数学の講義を担当されて居りましたので、日常最も多く指導して頂いた先生です。豪放と細密とを兼備された先生だったと思います。当時一般教育での数学担当者は先生と私の二人きりでしたので、事務的なこととか、学生との対応などで先生の所に相談を持ちかけると大概のことは「大局的には(イム・グロッセンとドイツ語で言われた)くだらんから簡単に処理するように」との一言で片付けられた。判ったようで判らないような気分でした。しかし学問の上ではお書きになったものからも判りますが、一分の隙もない精緻を極めたものと聞いて居ります。ときどき先生の知識の袋からもれ出るように、明治時代の私立学校や当時の学者達のことについて普通殆んど知られていないようなことを好んで話して下されたが、現代とのつながりの上で話されるので大変興味深く拝聴したのを記憶しています。

紙数の残り少ないのが残念ですが、お会いするごとにチョコレートを下さる英語の阿部先生、碁を打つと物凄い強腕ぶりを発揮される電気の貞清先生、それ程強くはなかった太田定治先生、三保の松原で赤富士を描かれていた和丹香苗先生の思い出。お会いするといつでも最後は叱られることになる。そのくせ不思議と後味のさわやかな建築の保岡先生などなど、忘れることのできない先生達です。

多くのすぐれた先生達に恵まれたこの20有余年これは私の人生の大半ということになりますが、まことに楽しい有意義な年月でした。このような工学院大学がいつまでも続くことを念願して筆を措きます。





## 御 挨拶

機械工学科 主任教授

赤 松 泰 輔

早いもので、私が本学に専任としてお世話になりましたのは昭和52年春からですが、その前に半年間2部の非常勤講師として勤務致しましたので合計5年を過ぎたこととなります。長いサラリーマン生活のあと本学に勤務し、無我夢中の内にいつのまにか日がたちました。

御承知のことと思いますが、機械工学科は本年度は就職求人件数が昨年より統計上20%増しで、非常に学生にとって有難いことですが、私が来ました頃は非常に就職が厳しかったことを考えますと、社会の変化は10年一昔でなく5年一昔かなとも思っています。又この状況はいつ迄も続くものでなく、5年も経たない内に又逆転する可能性もありますので、今の様な時こそ、相手の会社の方々を大切にしなければと思ながらも仲々思いうる様になりません。

又来年卒業生を送るとフレッシュな新入生が入って来ます。今年は新入生に主任として次の様な挨拶を致しました。

本学は工手学校以来の伝統のある大学である。卒業生

の方々も多く社会を指導し、社会に貢献されています。

本学の学風は決して派手ではありませんが、誠実にして堅実である。この伝統を守ってもらいたい。

大学の生活は今迄の受身の生活より脱却して、自分で切り開いてゆく所である。それだけに自己の生活に責任をもってもらいたい。

大学は考える所である。自己というもの、人間社会といったものをよく考えてもらいたい。

学問は考えることにより理解される。学問は丸おぼえでなくその意味する所をよく考えて下さい。考えるには書いて見ることである。工学は積み重ねである。休まずに蓄積に務めてもらいたい。

以上の様なことを述べましたが、今でもこれでよかったのかどうか思い返しています。諸先輩の方々、学生に注意されたいと思われることがありましたら御一報下さいます様御願ひ申し上げます。

皆様新宿までお出かけの節は何もおかまい出来ませんが、どうぞお立寄り下さいまして私達を激励して下さい。



## 大学における基礎教育

工業化学科 主任教授

伊 保 内 賢

大学を出て実社会に出るとすぐ役立つと云われる人があるが、現在の多様化している専門分野を全部教育することは難しい。大学ではその基礎となる学問を体得し、社会に出て種々の仕事や研究を行っても基礎がしっかりしておればすぐ役立つ状態に達するように期待される人を教育している。

この辺が工業高校や専門学校と異なる所であり、とくに

4年に行う卒論はこれに役立つと思われる。

最近、通産省も産業基盤となる基礎技術の研究にこれから10年間力を入れることが決定しているが、これは日本がこれから工業立国として成長するためには特に重要なことである。

戦後日本は造船に始まり、鉄鋼、自動車、ラジオ、テレビ、VTR、ステレオ、次に来るものは電卓、コンピ

ュータと世界1位に肉迫して来た。今後このように次々と新しい技術がわが国に有利に働くとは限らないかもしれないが、戦後わが国より上位の先進国が、国の事情とは云え次々と生産を低下し、わが国がのし上った。このような国の事情は、今後の日本にもおこりそうで、大いに参考にし、その対策を政府が考える必要がある。

現在の電子技術は目をみはるものがあるが、その基盤となっている技術の第1に材料の進歩があり、工業化学科の貢献が無視できない。通産省の基礎技術にも材料開発が主体のものがほとんどであり、工業化学の進歩が求められている。

しかし大学における技術進歩への対応も遅れていることも事実で、現在の大学教授で、最先端の技術を指導できる人は少ないのではないかとと思われる。国立大学の中にも、10年も前に企業で研究したと同じ内容の研究をしている大学もある。



## 日本人の独創性

電子工学科 主任教授

平 岡 正 徳

物々しい標旗を掲げたが、それ程大問題を論じようというのではない。先日、小学校の運動会を何十年ぶりに参観した友人から、その感想を聞いて思ったこと、をここに述べようというのである。昔のイメージをもって運動会に臨んだ彼は、その変化に驚いたそうである。団体競技をはじめとして全く統一がないそうである。我々は嘗て、列を正し一挙手一投足を互に合せるように指導を受け練習を積んだのであるが、その規律が全く見られなかったそうである。このような状況は学校によって違いがあるそうだが、友人の意見は、今の小学校教員には子供に規律を教え込む力がないのだということであった。しかし、日本人は思想・行動の統一化格一化を受け易い民族でもって、その特性があつた敗戦の悲劇をもたらした一因であることを思うと、統一化と格一化の特性を助長するような教育をしないほうが良いのだ、と日教組の先生方が考えているのではないかと、という思いが胸裏をかすめた。

世界の経済に恐慌を与えている日本企業の優秀さは、労使の協調、全社の一糸乱れぬ団結・勤勉に負う所が大きいことは世界の認めるところであつて、ここにも統一

最後に工業化学科について私見を述べさせて戴けば、化学工業も次第に石油の高騰やエネルギーの世界的逼迫により、その形態を変えようとしている。とくに生化学的な技術や触媒の研究は興味のあるところである。

工業化学科ではこのようなニーズにも或程度の対応を考え、学内ですぐれた教育ができ、学外的には社会に貢献できる権威をもつスタッフをそろえて、立派な学科にしたいと考えている。これからの大学には種々の難関があると考えられているが、そのなかで、科の充実をはかることはむづかしい事である。校友会各位の御支援により、世界一のよい場所にある大学が、日本一の内容をもつようになるよう努力しようと考えている。

工業化学は未来に希望のある学科であり、将来の発展が期待される学科でもある。よい学生が入学することを願うこと切である。 (以上)

化と格一化の特質がものを言っているように思う。小学校の運動会の無規律不統一さが、個性化への教育、悪く言えば無秩序化への教育の意図のあらわれであるとしても、その効果は、まだ現在の社会の色々な面に見られる集団化・格一化の実状に変化を与える迄には至っていないのである。友人の慨嘆は、我々の年齢層にとっては、何かよきものが失われつつあるような一抹の不安を覚えさせるのだが、それ程気にすることでもないかと思うのである。

最近、日本人の独創性を養うための教育が問題にされている。日本の科学技術の優秀さにも拘らず、真に革新的な科学や技術の殆んどが欧米のものだからである。そして日本人の独創性の乏しさの一因が、その非個人的であること、集団的な行動様式に走りやすいことにあると考えられているようである。小学校の運動会の無規律不統一さが果して、日本人の個性化ということを通して、日本人の独創性開発の問題にまで関わる事柄であるのかどうか、少々疑わしいのであるが、友人の話を受けてこのようなことを思ったのである。



## 校友会の皆様へ

建築学科 主任教授  
山下 司

校友会の皆様、実りの秋を迎え益々御活躍のこととお慶び申し上げます。建築学科も昨年25周年、4半世紀を迎え増々充実して来たと思っております。本学の教授陣の研究、社会に於ける活躍もさることながら、卒業生、在校生の活躍も目ざましいものがあります。例年行われる建築学会主催の競技設計には常に上位入選し、セントラルガラス・コンペ、日進工業コンペ、等いくつものコンペに入選しております。特に読売新聞主催の住宅コンペに於いては2年連続一位入選し又今年ポーランドのワルシャワで行われた国際建築家協会主催の世界学生建築設計コンクールに本学大学院生の作品が最優秀作品に選ばれ、4000フランの賞金を授与されました。本学もや々と国際的レベルになったと思われまふ。思えば25年前、本学建築学科が大学に昇格したとき、学生の作品は他校に比し大変レベルの低いものでした。実を云うと恥かしくてとても外部の人に見せるようなものではありませんでした。今思うと隔世の感があります。現在では建築学会の教育委員会のメンバーが、本学の設計教育を見学に来る迄に成長しました。又建築の実務の世界でも本学の卒業生は大変優れているとの評判を得、建築界で活躍しております。就職の面でも好成績をあげています。ローマは一日にして成らずと云いますが、4半世紀を経てやっと成人したと思っております。これも一重に諸先輩、校友の皆さん、下元先生、堀越先生等設立時の諸先生、教授陣の努力の賜物と感謝しております。

大学になって26歳、いよいよこれから本学も働き盛りになるわけです。我々教授陣も校友の皆様と協力しながら秀れた学園創りに励む所存であります。卒業生の中には最近アメリカを始め諸外国で活躍している人々も増えて来ました。先月約一カ月アメリカの建築事情を視察する機会を得ました。今アメリカの建築界は大変な活況を呈しています。アメリカ経済の不況から見ればまことに不思議な現象ですが、これは外国、特にカナダや中近東

のディベロッパーが、アメリカに大規模な不動産投資をしているのが原因のようです。4、5年前のアメリカ建築界の不況を思えば信じられない状況でした。特に活況を呈しているのは、ニューヨーク、アトランタ、シカゴ、サンフランシスコ、ロスアンゼルス、ダラス、ヒューストン等のその地域の経済的中心地で、新宿副都心計画の5～6倍の大規模な開発が急ピッチで進められ、かつてドーナツ化現象で活気を失い、スラム化した都心が華々しく息を吹き返し、アメニティーに満ちたすばらしい街に変わっていました。それはホテル、事務所、レストラン、ショッピングセンター等を、5～6階吹抜けのギャレリアと呼ばれるガラスドームに覆われた通路や、広場で連結し、イタリヤを始めとするヨーロッパの広場をインテリア化する手法によって、又古い建物を修復し、現代建築の冷たい街並に暖かい血を通よわせることによって見事な街造りを成功させておりました。このような街づくりに本学の10年程前の卒業生で、鈴木君、久野君、米山君等がチーフ・アーキテクト或いはシニヤ・アーキテクトとして参加していたのを大変うれしく思いました。ロスアンゼルスでこれらの諸君と建築について、母校について、学生時代の思い出等夜がふける迄語り合ったことは大変楽しい思い出です。教師にとって良い仕事をやっている卒業生に逢うこと程うれしいことはありません。これから増々優秀な人材を輩出させるべく努力しなければと思っております。それには本学のイメージを高め、優秀な個性豊かな学生を入学させなければいけないと思っております。校友の皆様にごお願いしたいことは、母校に誇りを持って大いに本学の特徴を社会に広め、優秀な学生を入学させるべく御協力を仰ぎたいことです。学園将来計画の大綱も発表され一段と飛躍しようとしている母校に多大なる御協力をお願いし、併せて皆様の御健康をお祈りします。

## 支部からの提言



大阪支部長 庭野七郎  
(昭17年応化卒)

全国校友会支部の皆さん及び台湾校友の皆さん。こんにちわ。お元気で日夜お仕事にそして校友会のため御尽力のことと存じます。

今度、機会を与えられたので、支部の一員として二、三考えを述べさせて戴きます。

### 1. 大阪支部の現況

従来大阪支部は広域で、大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山地区よりなり、一時近畿支部と称したこともあります。これを本部の要請あり、京都、滋賀を一諸にした京都支部が昭和54年10月発足しました。つづいて翌昭55年に兵庫県支部が生まれました。京滋、兵庫両支部共大卒の若い人達を中心に総会等大変な賑々しさです。目下和歌山支部をつくるべく話をすすめています。現在の大阪支部は大阪、奈良地区で会員数約200名です。京滋、兵庫と分れても校友が減った感じは全くなし、むしろ情報が活発になって新たに校友が名乗りを挙げてくれています。

### 2. 大阪支部の問題点

会のマンネリ化です。マンネリ打破のためには、支部独自の会合を設け、若い人達の魅力のある企画を工夫する必要があります。

残念なのは総会等皆集まって話合う時間が短いこと、会合の機会も年一度位で少ないこと。(役員会は年4～5回位)支部をよくするためには支部から本部に種々要請働きかけが必要と思います。

つぎに支部活動に活性がないことです。本部から受けた行事を支部が「やる。やらない。」と判断するのでなく本部は支部に「やるべきである」という論理があつてその効果は「こうなります」という説得力があれば、支部は「こうやろう」となり、そういう意欲が起れば支部は自らと活性化し、そして目的を果したとき、支部には活力が備ってくるものと考えます。

### 3. 校友会本部に

校友会には内外に亘る10余年の空白がある。この間他

大学の校友会は高度成長の果実を引つぎ、経済的に組織的に、目を見張る充実をなし遂げている。わが校友会は長年の空白を早く取り戻さなければならない。本部のやり方として、最近までは「ボトムアップで運営する」考えが全くなかったこと、これは不味い。また本部の委員会であるテーマが決まったとする。本部はそこまで、運営については「よきに計え」的形式で支部に下りてくる。

テーマが決まったことはその企画のスタートであるのに本部の仕事はこの段階で止まってしまう。これはとんでもないことで、支部の実行を補佐し、検討修正し総括することがしっかりできていない。総括がしっかりできてこそ見通し、将来展望、長期計画が出てくるものと思う。全国支部のトータル化が速かにできない本部では困る。これからの行事は本部の立場が明確にされて、支部に流れた場合、支部は本部の意向がよく解り、実施のアドバイスを受け、行動を起すことが支部の士気につながり、特に若い人達のやる気を起させるような工夫がなされることを本部に望むものである。

### 4. 望まれる校友会のすがた

総理となるためには主要な党務と且主要な大臣のポストを経て力量をつけることが必要であるように、校友会本部人事も、先ず自分の所属の支部を統括し且つ本部に於て支部に関係あるポストを経た人が、本部の幹部に選ばれるようなしくみの本部であつたら素晴らしいことだと思ふ。

これからの校友会は支部のネットワーク、経済的基盤を固めるためにも「システム」化を図るべきである。本部、支部の関係が有機的に関連づけられて、本部から支部に、支部から本部にまた支部から支部に情報が流れ個々の立場から企画、案が生れ、お互の交流が活発に行われるような「システム」化を形成すべきである。そして全国支部の個々の動きが、全国の支部全体の一部として本部にキャッチされるようなしくみがシステムとして成

立したら校友会の存在、本部と支部の関係は大変楽しいものになるだろう。

全国校友会支部の皆さん及び台湾校友の皆さん。母校



### 支部拡充強化の提言

福島県支部長 菊地忠雄

定款は校友会の憲法である。然るに定款には支部の規定がなく、施行細則第9条に「支部を設置してもよい」その際は支部規則を定めて理事会に提出して承認を受けなければならない。又支部役員は支部総会の推薦を受けて校友会会長が「委嘱しますぞ」ということになっている。

従って支部には如何なる権限があり、又支部というのは定款施行細則上如何なるものであるか。殊に毎年度予算に於ては、常に支部拡充を図るために相当の経費を計上している現状に鑑み、過般評議員会において、支部長会議なるものを考えてはどうかとの設問に対して、支部問題検討委員会を発足させ、何回かの会合により慎重な検討をした結果施行細則第10条に支部長会議の項を挿入し施行細則における位置づけをしたのであるが、越えて9月27日富士吉田ゼミナー校舎において第1回の支部長会議を開催した。会議内容は理事会支部問題検討委員会の方向を披露したばかりにとどまり、今後支部は如何にあるべきかの論議と展望は殆んど皆無といってもよい結果に終わった。

本来支部というものは、現状においては属地主義を取っている。各県支部又は全県内における方部別支部（たとえば東京近傍における各支部、福島県の場合福島支部いわき支部に分れていたが現在は福島支部に統一した）などがあり、6同窓会と各支部の実体は、属人と属地主義をお互にとり、いわば校友会内部に全く異った2つの組織が、或いは系列というものがあるということを先ず認識しなければならない。

即ち同窓会の如く縦の系列、属人主義を取る限り、属地主義を取る支部とは組織上なじまないものである。それを払拭しない限り、支部に対する如何なる拡充強化を図っても意味のないものであると考える。

と、校友会の一大飛躍のため、お互いに話し合い、協力して実行の方策を確立してゆきましょう。

56.10.13記

ここで支部本位の立場に立って物言えば、施行細則の改正により、評議員を支部単位の選出とする。

(定款第13条によれば、理事および監事は評議員会で会員のうちから選出され、理事は互選で会長副会長ならびに常任理事を定めることになっている)

然るときは支部の実勢が確立されて、会員相互の負担が軽減されると同時に、夫々の支部の地域性をもった意向が中央に正しく反映されることになるのではないか。

理想としては、現在の同窓会を解散して支部1本に出来ればよいが、それが不可能とすれば、逆に支部を解散して同窓会に総てを吸収し、施行細則第2条、第4条のとおり推進することが考えられます。しかしこの場合地域の实情、特殊性、またはブロック的に会員相互の親睦また出身者の地域的調和等は殆んど期待出来ない。

二頭立ての馬車も取者の手綱さばき一つで整然と進むが、こと人間である限り、組織の中に2つの主義が存在する限り、本質存在の感性を無視する訳にはまいらない。このあたりを理事会は勿論、現在設置されている支部問題検討委員会等で充分検討論議を行う様お願いしたい。

私は全会員諸公のお叱りを重々身に感じながら、敢えて提言したのであるが、この事が会の運営と会員の親睦提携が更に促進され、霊峰富士の彼方に明るい展望があれば幸甚である。5万同窓の諸氏の、より一層の健康と団結を願い、我が工学院大学の繁栄を心から祈りつつ私見を記したものである。若し言い過ぎがあったら寛容せられたい。

(昭和10年10月土木本科第二部卒業、92B、東北電力31年、日産建8年、東北電広社15年、福島市議5期、県地方労働委員1期、県労働審議会委員1期。)



### 支部長会議の位置づけについて

総務部長 落合康男

支部長会議の位置づけとは、支部長会議の目的、内容、権限等を明確にし、校友会組織の、どの部分に位置づけられるかをはっきりさせて、定款、又は定款施行細則中に明文化することである。

このことは昨年9月の支部長会議の総意として要望され、支部問題委員会で検討されて、種々の手続を経た上、本年5月の総会で可決、定款施行細則第10条(末尾参照)として明文化されたことは、ご承知の通りである。

去る9月27日の、昭和56年度支部長会議において、この結果が報告され、さらに次の3項目が決定された。

- 1) 支部長会議は、定款施行細則に定められた通り、評議員会に準ずる立場であり、その決議、要望等は、理事会等において尊重され、前向きに対処してもらいたい。
- 2) 支部長会議は、総務部の所管とし、支部拡充部は、その運営に協力する。
- 3) 支部問題委員会は、支部長会議の中の委員会とする。

(注) 末尾の組織図参照。

これで、支部長会議の位置づけは一応完了したことになるが、実は、今後に大きな問題が残っている。それは、支部長会議が、目的通りに機能するかどうかであり、機能させなければならないということである。むしろ、本当の意味の支部長会議の位置づけは、これから始まるのだといっても過言ではないと思う。

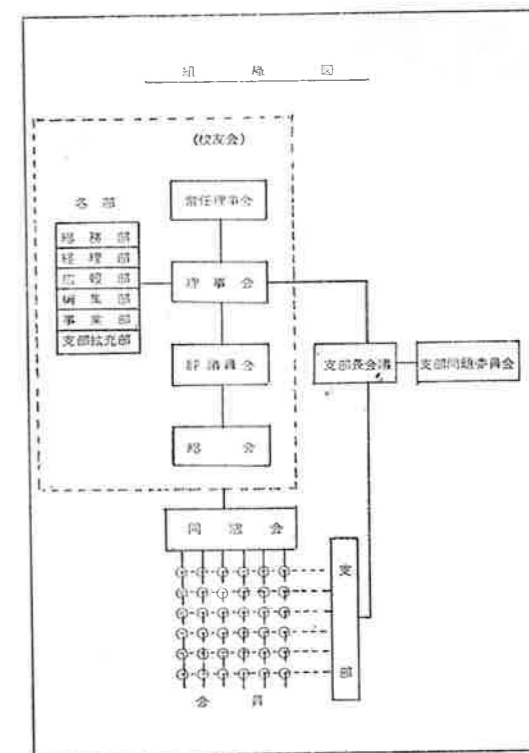
今後、支部問題委員会を中心に、種々検討されることと思うが、ここで、支部問題委員会についてふれておきたい。

昨年の支部長会議で、これまで、本部だけで物事を決定し、支部にながしてくるが、これからは、支部の意見を、企画、立案の段階で入れて、物事を決定し、支部へながしてもらいたい。そうでないと、協力出来ない。との提案があり、反響を呼んだ。そして、現在では、

これが本部対支部のあり方の中心をなしており、支部長会議の位置づけも、こうした考え方の結集として提案されたものであった。

企画、立案の段階で支部の意見を入れるということである。こういう主旨で、本部、支部両方から委員が選出されて、支部問題委員会が生れたのである。

当初、この委員会は、支部拡充部の中の委員会として発足し、支部長会議の位置づけの検討が、そのテーマであった。現在は所管も変り、支部長会議の中の委員会となってその活動も広範囲になった。支部側委員は、昨年



の支部長会議以来、活躍された方々の中から、出来るだけ地区別に選出されたが、いずれも支部の実力者ばかりである。本部側委員は、総務部及び支部拡充部の副会長、部長、副部長となっている。

大切なのは、こうした委員会が設置された状況であり、委員会の内容、機能と相まって、将来の本部対支部のあり方を表徴するように思えるのである。

(参考)

定款施行細則の抜粋

第10条 支部長会議は、各支部の支部長、副支部長及びその代理者をもって構成し、支部に関する諸事項を審議するほか、理事会の諮問に応じ、または必要と認める事項について助言することが出来る。



校友会の運営について

広報部長 榎本忠良

現在の校友会の運営については、飽き足らないと云うか、考えるべきことが多い。ことさらに意見を出すつもりはないが、会合があるたびに、何かと議論が起り易いのも会の体質なのか、PR不足なのか、評議員を始め役員の方々に是非考えてほしいことのようにである。校友会は親睦の会でありもっとスムーズに運営され、多くの意見はもっと前向きのことに向けられるべきと考えます。

本号の発行についても難産の結果やっと発行にコギつけたもので、本当にヤットと云った実感である。会報の発行については地方支部の方々を始め多くの人々より要望があり、又会報年1回は何としても少ないと思ひ、何とか年2回発行を昨年末提案して来ましたが考え方に反対される人はありませんが、各単体同窓会の賛成がなかなか得られず、その理由は財政難のため議論しにくいものでした。

財政については、校友会の財政も合併時の約束で各単体同窓会の分担金により運営することとなって居りますが、財政難を理由に分担金の削減の要求が強く事業計画は勿論のこと事務局の経費迄クレームがついて、校友会

2 支部長会議は毎年1回及び必要に応じて会長が招集する。

支部問題検討委員会

第1回 昭和56年4月5日 於会議室

総務部、支部拡充部担当副会長、部長副部長、中野、練馬、大阪、千葉各支部長ほか、計10名出席

第2回 昭和56年7月19日 於第五会議室

同前本部関係者および練馬、大阪、千葉、北区、兵庫各支部長ほか、計12名出席

第3回 昭和56年8月23日 於京都市左京区嵯峨野

総務、支部拡充部担当副会長、新任両部部長、副部長、大阪、兵庫、京滋、愛知、三重、千葉各支部長、副支部長、常任理事ほか、計18名出席

の運営にも支障を来す状況となり、心配した前島会長が会費の値上げと同時に校友会独自の収入を計られたのは、運営上やむを得ぬ処置と思ひ校友会の運営の円滑化を目指されたものでしたが、時間的な制約から急いだことに起因して何回も議論をくり返すこととなってしまいました。

合併時の約束が変わって行くことは残念であり一部に誤解を招き、旧校友会に押されているなど批判が出てくるのは説明不足があるにしても、どうしてそんな話が出るのか理解に大変苦しみ、約束が変る以上に残念なのであります。

今後は折角会費の値上げが出来たのであるから、会報の発行にしても年度予算に印刷費などは計上して、年2回発行の定着化を計り会員の満足と共に理解を深めて行き度いと考えます。但し配布については全会員を対象では3万部を超えて郵送費で財政がパンクしてしまうので工夫の必要があります。

校友会の運営についてもう一つの考えとして、小生は校友会はあく迄も親睦団体であり多くの会員も同様で、

出て来た時学校をのぞいて見るとか、久しぶりに友に会う楽しみなど、そんな場作りが校友会の最も大切なことであると思ひます。そんな働きで同窓生の輪を拡げ学校の何かの時には協力して力を貸すのも卒業生の役割とも思ひますし、そのため校友会の今後の発展を計って行き度いと思ひます。

この様な考え方から広報部内で話を致しますのも、校友会の会報のみならず本部についても、サロン風の応接を整備し気軽に立ち寄りてくつろげる場所、会員同士が歓談出来る場所作りも必要で、事務局も出て来られた方をもてなす機能を持つことも大切です。

それやこれや気になることが多いのも合併後日が浅くまだまだやるべきことが多いのだと自から云い聞かせていますが、会社の仕事が忙がしいと、無理して都合を

つけて出て行く身にもなってほしいものをつくづく思ひます。

そんな気持から学内の校友の方々にもっと協力して貰えぬものかと考えることがしばしばです。今年の評議員会や総会では大変時間オーバーとなり地方の会員方より強い御注意を受けましたが、あとで質問をしたり会議の時間をかけさせた方が学内の校友と聞いて正直ビックリしました。協力して会の運営を計るべき人達ではないのだろうか。こんなところにも現在の校友会の問題点が感じられまして、執行部の一人として今後真剣に考えて行き度いと思ひます。

いろいろと運営について述べましたが、是非会員の皆様と共に校友会のより良き発展につくして参り度いと存じます。(以上)



支部拡充部の動向

支部拡充部長 小野塚政雄

- // 錦見 彰 E S 32建 9
- // 横山 修一 G S 43電子11

本年も各地で支部総会を開いて戴きました。下記の通りです。

- 昭和56年5月17日 愛知県支部
- // 5月27日 北、荒川支部
- // 6月7日 山形県支部
- // 6月20日 大阪支部
- // 6月21日 京滋支部
- // 6月27日 兵庫県支部
- // 7月7日 川崎支部

以上

これから総会を開く予定の支部は下記の通りです。

- 昭和56年11月 日 新宿 支部
- // // 3日 新潟県支部
- // 11月14日 湘南 支部
- // 11月 日 三重県支部
- // 11月 日 武蔵野支部

支部拡充部員		学校卒業年科目
副会長 (拡充部担当)	足立剛 一	E S 25化 1
部長	小野塚政雄	B S 11機93
副部長	宮本 陸一	D S 35化136
//	磯田 昌男	G S 38化工 2
理事	愛川 高朗	G S 40建 8
//	伊藤 汎	G S 37機11
//	津久井雄司	C S 37機 4
//	寺島 敬二	D S 35金属135



56年12月上旬 板橋 支部  
 // 12月20日 横浜 支部  
 57年2~3月 群馬県支部  
 57年5月 愛知県支部

以上

今後の支部総会には学園の100周年記念行事や、新  
 校舎建築等に関する話題が、多くなって参りますので、  
 他の支部の方々にも総会をひらいて戴けるようお願い申  
 上げます。

全国大会のお知らせ

去る9月27日 工学院大学富士吉田セミナー校舎で行

なわれた、支部長会議で下記の通り了解を得ましたので  
 ご報告いたします。

開催時期 昭和57年秋頃  
 開催地 京都及びその周辺  
 開催地支部 京滋、大阪、兵庫の3支部(旧大阪  
 支部)  
 協力支部 愛知県、三重県、岐阜県の3支部  
 以上

□ 支部だより

川崎支部創設25周年記念総会

鈴木和夫



とき 昭和56年7月7日、PM6.30—8.30

ところ 川崎・小杉会館

出席 本部・落合総務部長、隈元委員  
 支部・関口城吉、三田村照次郎、西沢 剛、池  
 田敏雄、山本浩品、安原 豊、太田定吉、金尾武  
 彦、山田安基、小宮司照、金子浩二、山下与作  
 中川隆二、喜多村文雄、中田郷美、山谷山治、  
 清宮 洋、重田久雄、中島 裕、佐藤晃市、田  
 辺富一、鈴木和夫(25名)

創設25周年記念にさいし、この沿革の概要。

- 昭和31. 3. 初代支部長猪瀬藤作氏、会員13名で発足
- 34. 3. 2代目支部長石山愛敬氏(猪瀬支部長死去  
 のため)
- 40. 6. 創設10周年記念総会を行う
- 44. 10. 3代目支部長関口城吉氏(石山支部長死去  
 のため)
- 51. 5. 支部創設20周年記念総会を行う
- 56. 7. 7 創設25周年記念を行い新役員決定

(敬称略)

相談役 関口城吉、三木珍治、山下与作  
 支部長 太田定吉(4代目)  
 副支部長 西沢、三田村、鈴木(兼会計)  
 幹事 大西弘、金子、金尾、川口彦則、喜  
 多村、田辺、山本、山谷、安原  
 監事 池田敏雄

総会終了に引続き創設25周年を祝い懇親会が開かれ  
 た。歓談の続くなかで、福引大会、美声自慢が出るなど  
 なごやかな時をすごす。肩をくみ校歌を歌い、母校万歳  
 で解散した。

昭和56年度支部長会議報告

広 報 部

昭和56年度支部長会議はこの四月に落成したばかりの  
 富士吉田セミナー校舎の見学を兼ねて行われた。

懸念されていた台風の影響も、我が工学院大学校友会  
 に幸いで、9月27日(日)当日は朝からからりと晴れ  
 どり、季節にしては少し暖かい位の秋晴れとなった。

新校舎前からは八王子キャンパス送迎用マイクロバ  
 スが2台、1台は10時、1台は10時半出発で、早速第一  
 便に乗り込む。(なお国鉄新幹線三島駅前からも、関西  
 方面からの参加者用として11時に1台出発した。)

バスは一路中央高速道を走って丁度2時間で会場に到  
 着、初めて見るセミナー校舎の立派さに先ず目を瞠る。  
 4万平米に余る敷地には新校舎のほか、広い野外運動場  
 を隔てて旧セミナー校舎が見え、敷地の南と西をとり巻  
 く落葉松林(管理人の人による植林と聞いた)が未だ緑  
 をたたえ、その上に真近かに霊峰富士の七合目あたりか  
 ら上が望まれ、今日は雲の動きが活発で、ときどき頂き  
 を見わす。富士の頂上には雪は残っていない。黒ずんだ  
 陰富士風景である。

参加者は本日の来賓5名を併せて全員63名で、次々と



富士をバックに(ラウンジより撮影)

会場に到着、ひとまず2階のラウンジと食堂で休憩のひ  
 ととき、本校舎の設計者、大学波多江教授の案内説明に  
 より全校舎設備を一巡する。新時代感覚による近代建築  
 の気宇に圧倒されながらも感心することが多い。昼食後  
 60名収容出来る食堂を会議室に早変わりして会議が始ま  
 る。

会議次第(司会 宮本支部拡充部副部長)

- 1 開会の辞 足立副会長
- 2 会長挨拶 前島会長
- 3 来賓挨拶 (イ) 伊藤学長一要旨掲  
 (ii) 大塚先生(高等学校)  
 (v) 江口主理(専門学校)  
 (ニ) 林学生部厚生係長
- 4 議長就任 古谷静岡県中央支部長  
 副議長 法島世田谷支部長
- 5 経過報告 庭野大阪支部長  
 // 落合総務部長
- 6 議事 (イ) 支部長会議の在り方  
 [白山討論] (ii) 支部長会議の定款内規への織込み



会 議

位置付け

- (イ) 支部問題委員会の使命
- (ロ) 賛助会費の徴収
- (ハ) 昭和年度全国大会について
- (ニ) その他

以上を終わって懇親会に移った。議事、懇親会を通じて出席の方々からそれぞれ意見の開陳があったが、特に(イ)から(ロ)までの問題についての庭野大阪支部長、菊地福島県支部長、島田千葉支部長、尾崎同副支部長、本田同常任理事等からは積極的な意見が出され、それ等については前島会長、小高総務担当副会長、落合総務部長、小野塚支部拡充部長等から夫々応答が行われたが、問題が仲々難しく簡単には説明し難い部分を含んで居るようで、それ等についてはなお本会報の他の部分のスペースを借り夫々の責任者に解答記事をお願いしてあるのでそれ等を参考にせられたい。

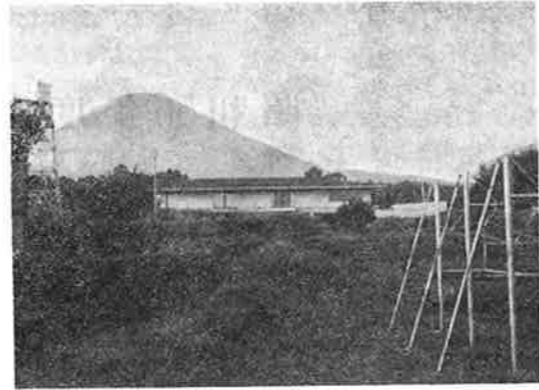
16時半、本日の催しを閉じて解散することになったが、あわただしく、如何にしても時間足らずに終わってしまった感じを禁じ得ない。せめて一泊を原則として、校舎設備の見学にも会議、討論にももっと時間を持つべきでなかったかと思われる。特に遠来の方々にとっては物足りなかったのではないか。その意味において当日一泊してなお懇談を重ね、翌日更に設備の見学を行った下記の人々に対しては特に御苦勞様と言いたい。小生もその1人だが、翌日は河口湖まで足を伸ばして数々の収穫を得て帰京した。

1泊者、谷口(新潟)太田、鈴木(川崎)尾崎(千葉)角田(足立)小野塚(支部拡充部長)計6名。

挨拶、意見の要点抜粋



旧セミナー校舎



新セミナー校舎

○ 伊藤学長挨拶

- (イ)本校舎は90周年記念事業の一貫として校友皆さんの寄付によって出来上がったもの、既設の白樺湖、軽井沢の寮とともに積極的に利用願いたい。
- (ロ)学園の将来ビジョンとして本校は都心型大学に徹する考えでゆきたい。

○ 自由討論の中から

- (イ)支部長会議にあまり参加者が多くないことにも、なぜなのか考えて欲しい(庭野大阪支部長)
- (ロ)支部問題委員会の位置付け、その存続期間について改めて考えてもらいたい(菊地福島県支部長)
- (ハ)賛助会費は元々一般会員から求めるべきものではなかった。今後どうするか(尾崎千葉県副支部長)
- (ニ)今日は提案、意見開陳のみとし、次回迄に結論を出したら如何(津久井千葉支部常任委員)
- (ホ)賛助会費は従来から通りの解釈をすれば今更論議することはない。金を集めるにはどうしたらよいか(島田千葉支部長)

なお昭和年の全国大会は京都で開催することに大体賛成多数で決定に傾いていることを付記してこの稿を終る。(角田記)

学園将来計画説明会開催

- 日時 昭和56年10月27日(火)18時
- 場所 第五会議室
- 参集 高山理事長ほか本部理事、監事、学校法人評議員を併せ36名。
- 説明 本学園将来計画について伊藤委員長より説明された。詳細は次回会報で報道の予定。

## 海外を旅して

間宮 富士雄



昨年2週間ばかり米国および英国を旅した。この旅に感じた事を2、3のべてみよう。

とにかく米人はよく食べる。会食のチャンスが多い私にはつくづくこの事が感じられた。若い頃の私はそれほどこの事について感じなかったのであるが、やはり年をとったのかなあとと思う。

よく食べる米人も日本人を見るとなんとスリムな体をしているなあと、出来ればスリムな体になりたいと思ふらしい。そしてどうして日本人はスリムな体であるかを研究した結果、食生活にあると考えたのである。とくにスリムな体になる食生活の原因は寿司を食べる結果であると結論を出した。そこで米国におけるすし屋の発展はめざましいものがある。ニューヨーク市にはすし屋が200軒もあり、どこのすし屋も米人で満席である。なんだか日本人がすし屋へ入ることが気がひけるような感じである。この傾向は今後も引続き持続するものと思う。

私は建物の型式について非常に興味をもっている。とくに外観についてはロスアンゼルス地区とスプリングフィールド(マサチューセッツ州)地区ではまるで異なる。ロスアンゼルス地区の民家は殆ど平屋であるのに対してスプリングフィールド地区の民家は二階家が多い。また、ロスアンゼルス地区の建物がレンガ積みの家が多いのに対してスプリングフィールド地区の家は木材が主体である。建物の屋根の勾配も異なり、ロスアンゼルス地区がフラットなものが多いのに対してスプリングフィールド地区の屋根の勾配は急なものが多い。最近、我国においても、米国、カナダおよびスウェーデンなどの木材主体の家屋が紹介され輸入販売されているが、なかなか合理的に作られている建物である。

この建物の差異は、専門家ではないからはっきりした事はわからないが根本的にはその地区の気候の差によるものと思う。ロスアンゼルス地区は常に5月の気候で、雨や雪が殆ど降らないのに対して、スプリングフィールド地区は雨や雪の多い事から建物の型式が異なってきたのではないかと思う。

最近では、自動車問題から端を発し我国と米国との間

の経済摩擦が深刻化しつつある。この原因はいろいろあるがその一つとして「企業と人間」について我国と米国との間に考え方の相違があることが考えられる。我国では企業が当然の事として社員を教育しレベルアップを図っている。ところが米国では社員の教育は企業の責任ではないと考えている。すなわち、企業は雇用した人間がその時点で企業にどれだけ貢献ができるかで給料が支払われている。米国の社会が企業内教育を含めた人材の育成に目を向けなかったら、我国と米国の格差はますます拡大していくものと考えられる。米国のいろいろの企業を訪ねることによってこの事をしみじみと感じた。

すでに皆様も御承知のとおり、ニューヨークとロンドンの間に英国航空のコンコルドが就航している。コンコルドでニューヨークからロンドンへ行く約9時間かかる。それがジャンボジェットの場合にはコンコルドよりも約3時間長くかかる。一方、運賃もジャンボジェットよりもコンコルドの場合は約20万円高い。しかし話の種にコンコルドに乗って見た。サービスの点ではいたれりつくせりであるが非常に振動がはげしかった事には驚いた。やはりジャンボジェットの方が乗りごちが良い。しかしこれはコンコルドに対するなれが少ないためかも知れない。英国ではビジネス界で成功する男の典型として「ユーモアがあり服装のセンスがよく再婚した男が多い」といわれている。また、ビジネスマンとして活動家であるためには、若い方が良いというわけではなく40歳以後冒険した者がトップになる例が多いといわれている。

興味深いことは最も成功しているビジネスマンの半数近くが再婚者であるという事である。

再婚した後に成功している例が多いことは2度目はすでにその忙しさを理解した女性との結婚だからうまくいくというのがこの事を調査した機関の言であった。最後に英国はスコッチウイスキーの産地であるから安いウイスキーがめると思っていたら、これがまちがいでパブなどで飲んでも相当に割高につく。また、日本食はものすごく高い。英国を旅行される方はこの点をくれぐれもお忘れなく。とにかく英国はホテルチャージからはじまりすべてのチャージが高いことが私の頭の中に入った。

## □ 近況報告

## ■ 大 学 ■

教務部として次の諸点について御知らせ致します。  
まず第一に、大学授業の年間区分が、昭和57年度においてともかくかなり大幅に変更となります。すなわち4月1日の入学式からはじまり、I部・II部とも4月8日に同時(普通)授業開始、7月7日に前期授業終了、7月8日～7月21日の間に前期試験、7月22日～8月4日・8月18日～9月14日の間II部教職授業、後期授業はI部・II部とも9月16日に同時開始してI部は12月23日、II部は12月22日後期授業終了、後期試験については、I部は1月8日～1月22日の間、2部については、12月23日と1月8日～1月11日の間に実施します。そしてII部特選授業は、1月24日～2月4日、2月12日～2月19日、2月22日～3月11日となり、3月20日に卒業式を行います。

そして、このように変更した主たる理由は次の二点となります。

(1) 現在、夏休みによって大きく中断されている前期授業がまとめて実施できるので授業終了後、期間をおかないで試験を行うことができるからです。

(2) 4年生の就職とのかかわりあいにおいて、このような授業区分の方が、より効果をあげるとの判断に基づいています。

もちろん現行の年間授業区分と比較して+-の両面がそれぞれにあるわけですが、以上のように改正した方が+の面がより多かろうと考えたからです。

第二に、(1)、学ぶ意欲のある学生を確保する観点から、次年度においてもI部指定校制推薦を実施致しました。本年度よりかなり成果があがることが期待できます。そして将来にわたってこの制度が定着すれば幸甚と思っております。

(2)、工業化学科と教職課程の連繋のもとに、教職志望の学生に対し中学校・高等学校の理科免許状をとらせるべく、去る9月30日文部省に当該事項に関する申請を致しました。関係者それぞれの苦勞と努力がみのるよう念願しております。

(3)、なお後援会においては本学発展の一助として、全

国各地方に支部づくりを行っています。とりわけ教務部として痛感されることは、学生本人の成績等が父母に案外伝わっておらず、にもかかわらず関心度がきわめて高いことです。したがってこれらの点について、多角的に検討しかつ父母との結びつきを密にする必要があると思います。(総務部長 宮島 堯)

## ■ 高等学校 ■

## 《学校行事》

昭和56年4月8日、入学式。422名の新生を迎える。4月28日、恒例の高尾山・景信山強歩大会。好天に恵まれ、全校の教職員・生徒、和氣満々のうちに難路を踏破。5月13日、大学進学説明会。5月20日、一般専門学校説明会。

6月3日、1年 河口湖・富士裾野方面へ一泊遠足。オリエンテーションを兼ねた新しい試みである。うの島での飯盒炊さん、青木ヶ原のハイキング、宿舎でのキャンプファイヤーなど楽しんだ。6月10日、17日、工科大学学科説明会。本大学各系列学科から講師をお招きして、各学科の性格、内容等につきお話し願った。6月24日、母の会と生徒との懇談会。

7月2日、本年度第一回の大学・高校連絡協議会。大学側平川学長代行以下14名、高校側校長以下17名出席。本校出身推薦入学者の学力、意欲の現状とその向上等につき意見交換。運営の円滑化を図るため、小委員会設置を決定。7月21日～27日、英語・数学・理科の夏季進学講習会を開講。受講者199名。

8月3日、P・T・A、後援会、富士セミナーハウスの見学を兼ねて、各クラブの合宿視察。

8月27日～29日、ガス溶接技能講習、受講者220名。残暑の中、熱心に技能修得に励む。

9月1日、防災訓練の実施。午前10時、警戒宣言の通報と共に、生徒全員を下校帰宅させる。9月2日、3日、競技大会。サッカー・バスケット・バレー・卓球、水泳・柔道の6種目に個人あるいはクラスの覇を争う。9月19日、体育祭、男子校らしい力の演技、都立二商バトンガールの客演が華やかな彩りを添える。9月30日、工学

部大学専門学校説明会。

## 《クラブ活動》

○放送部 8月、NHK放送コンテスト全国大会テレビ部門に出した「ハーネスに結ばれる心」(盲導犬)が三位に入賞する。

○自然科学部 7月10日、NHK総合テレビで放映された「これが原子炉だ」の中で、放射線の飛跡が見事に映像化されたが、これには本校自然科学部手作りの霧箱が一役買っているとの事。

○野球部 7月全国高校野球東京地区予選で一回戦は青梅東高に楽勝したが、二回戦は福生高校に7-0で苦杯を喫する。

○重道部 5月5日、関東大会に敢闘賞。5月31日、全国高校柔道大会支部大会に優勝。6月21日東京都総合体育大会に敢闘賞。9月、東京都学年別支部大会に1年優勝、2年準優勝。都大会に2年ベスト8に選出、3年3位の成績を収める。

(高校 宮越美知夫)

## ■ 専門学校 ■

## ○高校訪問

昼間部では入学試験と推薦制度を併用して、入学生を選抜しています。誰でも試験は好まないのに、入学試験があるだけで選抜の目的が果されています。推薦制度は高校の先生との信頼関係に立って、よい学生を選抜していただきます。このためには高校の先生に本校を知ってもらうことが必要であり、われわれはこの目的で高校訪問を行っています。

9月16、17日の2日間、鈴木校長ほか2名が沖縄の高校12校を訪問しました。出身地別の学生数をみると、沖縄出身者は、東京・神奈川・埼玉につぐ多数です。那覇市・沖縄市の小さい面積に学校がまとまって存在するので、広報効果の測定に適當であることと、一層多くの入学志願者を期待するために、この地を選びました。那覇では、校友会仲村朝喜沖縄支部長はじめ5名の方の歓迎を受け、16日は仲村さん、17日は松島さんの車で各校を訪問しました。この前後、東京は秋雨が続いていました。

## 近況報告 □

が、沖縄は太陽の照りつける晴天、ありがたいご厚意でした。支部の皆様のご協力とご親切に改めてお礼申し上げます。

学校を選ぶときに、知名度と、誰が決めるかという2つの側面があります。本校の知名度は高いとは言えず、むしろ何々工学院という名が通っていて、金をかけた宣伝にはそれなりの効果があることがわかります。学校を決めるのは本人と親ですが、実質的な選定の助言は、進学指導・担任の先生と先輩から出ます。高校の先生方との信頼関係は、受験誌・新聞広告にまさる広報効果につながるようになりました。沖縄県人は教育に熱心で、借金しても子供を学校に入れると語った、ある先生の言葉が印象的でした。

## 父母会

6月30日に、昼間部の父母会を発足しました。目的は3つあります。第1は、学生に家で勉強させてほしい、特に製図・レポートなど自宅作業のための環境を作ってほしい。第2、遅刻・欠席を無くすために、朝きちんと家から送り出してほしい。第3、家じゅうで学校のシンパになっていただく。このお願いのためには、父母に学校と教員を知ってもらう必要があります。できるだけ多数の父母に出席してもなうために、時期を中間試験の後に合せました。1、2年生の父母に対しては中間試験の成績を、2年生のためには更に就職の話題を準備しました。出欠のはがきを集計していくと、在籍550名余の内255名が出席であり、出席率20%と予想していた学校側はうれしい悲鳴をあげることになりました。

当日は教員側が30人、実験実習・製図など学生との接触の深い教員が、父母と個別に面談し、待ち時間が長く相談時間が短いという苦情はありましたが、今後の運営に大きなプラスでした。朝、弁当持ちで家を出ているが、出校していない学生がいる、などの意外な発見がありました。

(専門学校 江口英郎)

□ 近況報告 (単体同窓会)



機械工学科同窓会

会長 長坂 舜二

5月24日(日)に今年度の評議員会、つづいて総会が開かれまして、昭和56年度、57年度の同窓会役員の改選が行われ、次のような分担で会務を分掌し、運営をすることになりました。

- 会長 長坂舜二(大学1回)
- 副会長 小野塚政雄(工学院、93回)
- 〃 田中博国(大学3回)
- 理事総務 津久井雄司(工専4回)、関口 勇(大学13回)
- 〃 経理 西沢忠志(工手造76回)、宮坂勝利(大学14回)
- 〃 会誌 大柳 康(工専1回)、田中博国(大学3回)、杉山助一(大学5回)
- 〃 名簿 青木浩一(大学5回)、八木平八郎(大学5回)、青野 毅(大学5回)、後藤弘太郎(大学14回)
- 〃 ビジョン 武笠 忠(大学5回)、伊藤 汎(大学11回)、稲場日出男(大学16回)
- 〃 長期財政 清水寛一郎(大学1回)、内田恒雄(大学2回)、松永 登(大学8回)、天野晋武(大学11回)

新しい執行部で検討しました運営のあり方についての検討課題は次の通りです。

1 機械工学同窓会の運営について

これまで多数の会員諸兄には終身会員の資格で御入会頂いて居りますが、御賢察のように、この10数年の物価の高騰は、会誌を、これまでの形態で毎年発行し、会員名簿を2年毎に発行するというを基準にした会の運営のあり方に根本的な検討を要求しております。それで、課題は会員のためにある同窓会でありつづけるために、会の財政的な現況の再検討とコミュニケーションの形態についての工夫です。

2 校友会の立場での運営について

旧校友会と学園同窓会の合同に際しての合併原則は新しく生まれた卒業生の会の運営に関する根本的な理念を表明したものであります。本学園の歴史に見られますように、会員には種々の学校の卒業生がおいでになりますし、また、専門を異にする人、たずさわる仕事の範囲の広さもあり、会員の考え方、感じ方にも自ら異ったものがありますのは当然なことであり、また、このことが会の特徴と考えられます。新生校友会は、このような会員構成によるそれぞれの会員の考え方が無理なく反映されるように運営することが課題です。

今年度は財政的事情で会誌の発行を明年4月まで延期することになりましたので、会務の御報告は、以上述べました検討課題の御報告と併せて、その折に申し上げます。母校、工学院大学の将来像については学校側の検討も進み、第1回の説明が10月27日にありました。このことも、4月発行の会誌で御紹介することにして居ります。

建築学科同窓会

会長 小高 鎮夫

昨年11月に建築学科開設25周年記念祝賀会を一つの転機とし、在来の年度別から研究室別へと組織替をしましたが、住所録の整備されていないOB研究室会は忘年会等開くなどして、名簿編集を通じ、その成果は徐々にあらわれております。又同時に同窓会とは一体何なのか、運営委員会において活発な議論がなされ、2カ月に1回でも学校の校友会室に集まり、各研究室OBの輪番制で、建築に関する研究会を開こうということなどが話し合われております。いずれにしても、工学院大学を卒業したOBは、その年齢からも、今が社会の中においても、最も多忙であり、その人達をいかに工学院大学の卒業生として、母校に目を向けさせるかは、私達幹事の使命でもあると思います。

本年、UIA(国際建築家連合)主催国際学生設計競技会における本大学建築学科による応募案の入選や現建築学科助手(44年)の初田亨氏の筑摩書房出版の『都市の明治』——路上からの建築市——又、南迫哲也助教授

近況報告 □

(同卒)のフランク・ロイド・ライトの研究など身近なテーマを選び、卒業生同志の『会話』がお互いになされ、機会を持つ様、努力して行きたいと思っております。まず下記テーマで第一回を開催致します。

第1回 建築学科同窓会——懇親会——  
 テーマ「フランク・ロイド・ライトへの旅を終えて」  
 南迫哲也建築学科助教授  
 日時 昭和57年1月23日(土)  
 会場 工学院大学新館8階 校友会会議室  
 参加される方は校友会迄御一報下さる様お願い致します。



応 化 会

会長 富所 良二

昭和56年5月30日第29回応化会総会が開かれ、初代会長の山根先生の後任として、昭和50年より3期に亘る長い間会長を勤められた間宮富士雄氏の辞任に依り、図らずも不肖私が会長に選出され就任することになりました。初代会長山根先生は本会の創立から会の発展のため熱心に尽力され、本校の大先輩であり更に日本工業化学界の権威者として、その人格と共に広く社会に知られている知名人でもあります。尚前会長間宮富士雄氏も本校旧制工業専門学校を昭和23年に卒業した大先輩で現在日本シーピーケミカル㈱の役員として化学工業界に広く貢献している傍ら、6年もの長い間会長として独特な新機軸とすばらしいアイデアで色々と立案計画され熱心に本会を御努力下されたことは御衆知の通りです。かかる偉大な大先輩の後任として重責を果すことが出来るかと不安を感じる次第です。しかし2大先輩は高所より御指導御指摘下さる事になっておりますので心強く思っております。現在本学園は校舎ビルの再建問題等開校以来、未曾有の難問を抱えており、私達同窓生の役割も重且大なるもので役員は勿論全員一丸となってやらねばならない大切な時であります。学生を始め会員1人1人にメリッ

トのある、そして積極的に全員で協力しあえる会にと考えております。私の任期中少しでも新風が吹き込まれ、本会を始め本学園の大発展につながる事が出来ればと頑張る所存ですので1人でも多くの御意見御案件を賜らば幸に存じ上げる次第です。何卒同期同窓の志を御誘い下され本会又学園発展の為同時に私達1人1人の発展の為御協力を御願ひ申上げまして近況の報告と致します。

高等学校同窓会

会長 足立 剛一

高校同窓会会員諸兄にはますますご活躍の事と存じます。昭和56年度総会を来る11月15日(日)に八王子校舎で開催いたします。懇親会はホテル中安にて行います。昨年は多くの会員諸兄のご参加を賜わり盛会でした。新宿校舎で卒業された諸兄はこの機会に八王子の母校をご覧いただき八王子校舎で卒業された方は多くの友人をつれてご参加下さい。そして総会が盛会に終ります事を希望いたします。

本年は高校の校舎が八王子に移転して14年に当り又同窓会が設立されて十四周年に当りますが、この間諸先生をはじめ役員の方々そして会員諸兄のご協力により同窓会の運営が円滑に行われていることに感謝いたしております。しかし今後同窓会の運営には種々問題がありますがまず前年度より基金作りを目的に財政委員会が設置されましたので各界で御活躍の諸兄からの特別な御援助を賜ればと存じております。又会員名簿のカード化にもなる名簿委員会も設置されましたので多くの友人の住所判明者をお知らせ下さい。

次に会員諸兄にお知らせいたします。この度遠藤校長先生が私学振興につくされた理由により都知事より学校教育功労者として表彰されましたのでお祝い申し上げます。

尚本年度の法人の役員選出と校友会の役員につきましてはすでに会報でお知らせしてありますが、新たに役員に選出された諸兄には高校同窓会共々校友会の活動に御協力をお願い致します。



## □ 近況報告

### 専門学校同窓会

副会長 高橋 孝治

56年10月4日秋季卒業式が行われ、同時に新しく152名の会員誕生で、これで今年度525名の新会員が我々の仲間入りをしました。今回から新しく会員になります卒業生を、各教室に訪ね、忙しい一と時の時間をいただき、同窓会の目的、運営等について会長が説明して回りましたが、いつもながらの光景に専門学校卒ならではの、将来必ず社長に成るとの勇ましい声を耳にして頼もしい気がしました。これからの行事は、11月下旬の製図展に今年から積極的に後援活動をする事が、理事会で決定しました。埋もれております優れた作品や労作等に対しても、賞を贈り生徒の励みにでもなればと、企画をたてております。次の恒例となりました新年懇親会は、来年は初めて都内で行う事が先頃の理事会で決定しております。現在小野委員長を中心に会場等を検討中です。来年も100名程の参加者を予定しております。参加御希望者は早目に同窓会へ連絡頂ければ、後日詳しい案内書を送付致します。この後は春の運動会の後援、そして6月第一日曜日の総会へと行事は続いて行きますが、魅力ある同窓会を目標に発展させてまいります。会員諸氏の暖かい御支援御指導宜しく御願ひ申し上げます。

### 校 友 会 だ よ り

#### ○学園将来計画大綱発表さる

10月31日、創立記念94周年記念式典に発表された学園将来計画大綱は、学園の将来像を「都心型を指向する」教育内容は教育形態および校地はこれを軸として考慮される——としており、新宿校舎への移動を1990（昭和65年）をその最終年とした。この様に今工学院大学学園は創立100周年を6年後に控え、新宿の新都心の正面に位置する母校は現代の工業日本のニーズに答えながら創立以来の建学の精神を基に更に大きく飛躍する時期が来たといえよう。これに対して、校友会将来ビジョン特別委員

会は、この大綱、そして学園の将来への進むべき道が本校友会にどの様な影響を与えるか、又どの様に協力すべきか、討論を開始しております。

#### ○支部長会議開催と賛助会費

9月27日、富士吉田セミナー校舎にて、昭和56年度支部長会議が開かれました。支部長会議の位置づけ、並びに賛助会費の問題等、終始活発な討論がなされた。特に賛助会費の徴収については、①1口2,000円以上（50,000円の分割扱い）又は50,000円以上、②納入金額の30%を交付金として、納入者の支部へ返還する、③交付金はまず積立とし、積立額の明細を支部に通知する、④この会費は積立とし、目的を定めて使用する。（理事会審議事項）の項目が提案された。これは支部活動の活性化と、校友会活動の今一層の発展を願う資金を得るためのものであり、今年度新入生からの新校友会費徴収と相まって早急に徴収開始が待たれているものであります。理事会、支部長会議にて上記賛助会費の審議は終わっているが、現在は、定款検討特別委員会にてその詳細が検討されております。

#### ○事務局の整備

次に、事務局整備の問題であります。去る10月1日付けで、現本学法人の調査企画室の吉田清風先生が、校友会の事務局長として兼務して頂くことになりました。

事務処理の能率化、事務職員の指導、校友会員の交流、学校側と校友会の交流、そして議事録の整備等をお願いする予定であります。又今の調査企画室が校友会室の資料室に入ることになり、その替り、一階の法人事務室の一部に資料室が行くことになりました。

新宿校舎建設開始は1986（昭和61年）でありますので、その間の5年は、校友会と法人の調査企画室が隣合って生活するわけですが、それにより、大学に園と校友会との関係が一層強く結ばれることが期待出来ると思われま

#### ○学生表彰の件

現在、学園には成績優秀学生・生徒に奨学金（大岡奨学金・溝呂木奨学金・月原奨学金）制度があり学園創立記念式典において計36（12×3）名程が表彰されています。（内月原奨学金のみ高等学校4名、専門学校4名が

含まれる）、これに対して、校友会も本学園学生・生徒（大学・高校・専門）の奨学を目的に表彰し、合計19名、予算額40万とする等が事業部会より提案され、検討中であります。

#### ○新年会の件

昭和57年の新年会は、新宿校舎において高山英華新理事長を迎え、その講演をお願いしながら開催の計画であります。各単体20名の約100～120名程の出席が予定されております。その時には学園将来像も又一步前進していることと思います。

#### ○定款検討の現状

校友会と学園同窓会の合併当初からの懸案でありました、定款見直しに対する検討であります。支部長会議の条文を施行細則第10条として新たに新設（総会にて承認）することから始まり、定款検討特別委員会において毎月一回の日程で熱心に逐条審議が行なわれております。「役員任期を学校法人と同様3年とする」、「役員選出の評議員会は次期評議員会にする」、「支部選出評議員を設ける」、「準会員制度を設ける」、「賛助会員制度に対する適応範囲については文部省の見解を聞く」などがその主なるもので、校友会の合併以後の状況及び学園の将来を考慮しつつ、十分に慎重審議を行っております。

#### ○名簿の電算化

学園の本年度の予算化に伴ない、校友会も今年50万円の予算計上を行って、所属学校の卒業生の現況把握のための卒業生名簿のコンピュータ化に向けて現在検討中あります。この制度により、宛名印刷、各会員の卒業年度と所属支部の確認、必要に応じた名簿作成の資料等の

事務の能率化が期待されております。なお、各単体同窓会の名簿整理の現状は、電気、建築、専門はほぼO・K機械、化学、高校は大会返信整理を残すのみとなっております。

#### ○会報年2回発行

合併以後、経費の点もあり、年一回発行の会報も、一般会員の強い要望もあり、年2回の発行が理事会で承認された。これは総会通知、会計報告、事業報告等の校友会の基本的情報の伝達とは異り、支部や同窓会或は学校、学部の動静、PR、又は随筆など、ユニークな内容とする編集方針であり、発行部数も、全会員対象でなく、各同窓会500部を最低発行部数として計画されています。

#### ○支部

56年度の支部拡充部の活動方針は(1)支部の分割と統合(2)支部組織の強化発展（支部長会議の位置付け、東京都内支部の強化等）(3)支部への援助（支部総会開催の支援）(4)本部支部間の連絡(5)各種会議行事の企画・立案の5項目が打出され、現在、その方針に従って活動中であります。

#### ○新校友会費値上

昭和56年入学生から大学20,000（内同窓会費7,000）、高校15,000（同上5,000）専門学校10,000（同上3,000）の校友会費（在学中の分担納入）徴収が、総会（5月31日）にて承認されましたが、現在の正会員（終身会員）からも賛助会費（仮称）を徴収する必要があることが全員拍手で認められ、前記の如く、その方法が検討中あります。以上

総務担当副会長 小高鎮夫

## 竹内七蔵氏のご逝去を悼む



林水産省）重弟試験場に勤務され、今日に至りましたが、

本会理事、東京中野支部長竹内七蔵氏は、昭和56年8月16日、ご家族の懸命なご看護の甲斐もなく、虎の門病院においてご逝去されました。享年66歳でした。

氏は、昭和15年工学院電気科101回の卒業で、農林省（現農

### 総務部長 落合 康 男

40年にわたって、製糸機械の研究を続けて来られました。この間、数々の業績をあげられました。

本会においては、理事、常任理事として会務に尽力され、東京中野支部長として、長年にわたり支部発展のためにつくされました。

氏の温厚、篤実なお人柄と、あの温顔に、ふたたび接することが出来ないとは、誠に悲しいことです。

心からご冥福をお祈りいたします。



### 昭和57年新年懇親会開催のお知らせ

恒例の新年懇親会を57年は母校の新宿校舎で開催致します。今回は新理事長の高山英華先生に講演をお願いしておりますので、本誌の頁で紹介されている経歴から殊に含蓄のあるお話を拝聴できるものと期待しております。

会員の皆様には御多忙の処、万障お繰り合せの上是非共の御出席をたまわり、例年の如くより多くの御来賓をおおぎ、高山先生に盛大なる拍手を下さり、懇親を深めると時を過したいと存じます。

会員の皆様の御壮健をお祈り申し上げお知らせ申上

げます。

記

日時：昭和57年1月24日(日)  
第一部 特別講演会 11:00~12:00  
第二部 懇親会 12:30~14:30

会場：工学院大学 新宿校舎  
会費：3,000(当日御持参下さい)

申込方法：葉書又は電話で願います。  
(準備の都合上早目に御返事を御願致します。)

### ◇編集後記◇

会報101号は校友会支部の活動を主体に編集した。理事会で年2回発行が決議され、また本号は随筆を主にソフトな編集方針から今迄にない会報を目指して、あらたな役割を果す上で道が拓けた感がある。

いま校了を目前にして煙草に火をつけ、ふと書棚に目をやると、この場にびつたりの本がある。高見順氏の「ちょっと一服」である。和紙の少し摺り切れた表紙が手ざわりよく文中に誘わせる。数頁づつの随筆集で、「私の10大ニュース」と題した文中に、東大の'60年頃の五月祭の話がある。当時初めてジャズが演奏されたそうで、近頃の学園祭を見るにつけ隔世の感がある。つい読み進むと台湾の104歳の婆が長寿の秘法にカタツムリ

が大好きだと語っている。よく読めば常食にしているようだ。見るにしろ食するにしろ、何とも慌ただしい。昨今、カタツムリ=長寿とは何ともウィットに富んだ話である。

ところで、会報の発行には種の問題があるようだ。各同窓会の費用分担、全国に亘る各支部への配布方法と経費、そして記事内容の検討等々、問題山積である。

校友の皆様からのご指導とご協力を切に望み、併せて記事原稿を選んでご投稿くださるようお願いしだいである。とはいえ、皆様からのご意見いただきながら、前出のカタツムリの話にことよせて、少しづつ改善して行きたいと思う。

これがこの会報の長寿の秘訣であり、ひいては校友会の将来への永続となることを祈らう。(中島記)

電気機器の設計・検査  
業務 開発手法・実験計画法

## 小沼技術管理事務所

所属団体

- (社) 日本技術士会
- (社) 関西電気管理技術者協会
- (社) 大阪技術振興協会
- 地域産業技術協力センター

電気管理技術者  
電気技術士  
生産管理

### 小沼三郎

(昭2電気卒)

校友会大阪支部理事

〒666-01 兵庫県川西市東多田字滝の上3-147  
電話 (0727) 93-0341

# 良心的な電気工事

- ゆたかな経験
- すぐれた技術



## 東光電気工事株式会社

取締役会長 杉山 慎 取締役社長 松本福男  
東京都千代田区西神田1-4-5 ☎101 電話/東京292-2111大代表  
支社/札幌・仙台・丸の内・横浜・名古屋・大阪・九州

## 上信越高原国立公園

校友・学生の皆さまのお出をお待ち申上げております。

四季を楽しめる憩のお宿  
豊の合宿に・文化系ゼミナール 1泊2食 4,000円  
釜のスキーに(専用駐車場有り) (35人収容)

三國高原二居スキー場

# ロッヂ あくけい

石井 忠正 (電91)

★交通のご案内

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| 特急 上野～越後湯沢 2時間17分 | 車で東京から関越～国道17号 |
| 〃 新潟～越後湯沢 1時間35分  | 利用……2時間30分     |
| バス 越後湯沢～二居スキー場30分 |                |
| 二居スキー場から苗場まで 6分   |                |
- 〒949-61 新潟県南魚沼郡湯沢町二居  
TEL (025789) 2801

編集人 角 孝 助  
発行所 株式会社  
印刷所 東京都中央区  
電話(552)九七三三

発行所 社団法人 工学院大 校友会

東京都新宿郵便局私書箱第十三号  
東京都新宿区 西新宿一丁目四十二  
電話 淀橋(32)二〇六四番  
振替 東京九一〇八番  
一六〇一九一

# 世界水準を誇る品質と技術



代表取締役会長  
計量士  
溝呂木金太郎  
(大正10年機械科卒)  
代表取締役 溝呂木雅之

圧力計 温度計  
カロリーメータ 液面計



## NKS 株式会社 長野計器製作所

本社	東京都大田区東馬込1丁目3番4号	(代表)
上田工場	長野県上田市大字秋和5丁目1番0号	(代表)
東京支店	東京都大田区東馬込1丁目11番3号	(代表)
大阪支店	大阪府東区北久太郎町2丁目4番1号	(代表)
名古屋支店	名古屋市中区錦1丁目11番2号	(代表)
広島支店	広島市中区橋本町6番11号	(代表)
九州支店	福岡市博多区博多駅前3丁目23番12号	(代表)
札幌営業所	札幌市中央区南三条西12丁目325番地2	(代表)
仙台営業所	宮城県仙台市一番町1丁目13番20号	(代表)
静岡営業所	静岡県静岡市伝馬町2番地8	(代表)
四国出張所	香川県高松市瓦町1丁目3番地12	(代表)
富山出張所	富山県富山市八町9番11号	(代表)
長崎出張所	長崎県長崎市光町5番20号	(代表)
アメリカ駐在事務所	PACIFIC SCIENTIFIC—Industrial Division 3020 N-Hesperian Way, Santa Ana, California, 92706 U. S. A.	TEL. (714)558-6964 TELEX. 68-5648
ブラジル連絡事務所	MITSUI BRASILEIRA IMPORTAÇÃO E EXPORTAÇÃO LTDA. Avenida Bernardino de Campos, 98 Picaíso São Paulo, S.P., BRAZIL. TEL. 284-3011 (代表)	